

## 年間第6主日

マルコ 1・40 - 45

2018.2.11

高円寺教会 9:30 ミサ

うめざき たかいち  
クラレチアン宣教会 梅崎 隆一神父

神社やお寺にお参りに行って、自分の願いが叶ったら、「ああ、あそこの神様は本当の神様だ」ということになって、たくさんの方が殺到します。キリスト教でも多くの方はルルドに癒しを求めます。そして、病気が治る人もいらっしゃいます。

今日福音に登場する人は、神様のみ旨と自分の病気が治って欲しいという望みが同じであったことを喜んだのではないかと思います。当時、病気の方は「あの人が病気であるのは、あの人が神様に悪いことをしたからではないか」とか、あるいは「なんかその人の両親が罪を犯したからではないか」考えられていた。そんな中で今日登場する重い皮膚病の方は「自分の病気が治ったことは神様の望みであった」、そして実際に治ったのだから、喜びはひとしおだったのではないかと思います。

わたしたちも病気の癒しだけではなく、結婚したいと思っていた相手と結婚ができたとか、あるいは司祭に叙階されたというような満願成就が達成されたというのは、とても嬉しいことです。

また差別からも解放された喜びもあった。病気であるだけで差別されていたのだから、病気が治ることは差別から解放されることでもありました。

しかし神様のみ旨は、二つありました。一つは病気が治ること、そしてもう一つは沈黙、つまり誰にも話さないでくださいというものでした。ところが一つ目のみ旨が成就したと分かった瞬間、二つ目のみ旨はどうでもよくなって人々に言いふらし始めました。

本人にしてみれば、イエス様への感謝を込めて言い広め始めたから悪いことではないと考えていたことでしょう。でも残念ながらそれは神様のみ旨ではなかった。病気が治ったことだけが言いふらされるなら、イエスが示したいメッセージが伝わらなくなります。

それから3年の月日が流れ、イエスはゲツセマネの園でお祈りをします。「どうぞ、み心であるならこの杯を遠ざけてください」というお祈りでした。病気が癒された人とは逆で、イエスの場合は、人として受けたくないものを神様のみ旨として受けなければなりません。その杯には、偉い人たちから迫害を受けて、友達からも見捨てられ、十字架につけられるという中身が満たされていました。人として逃げたいことでしたが、彼は逃げませんでした。人

間が作り出した苦しみを弱い人間の一人となられた神様ご自身が受けることによって、すべての人を救うことを望まれました。そしてその苦しみを人間に担わせたくない、それが神のみ旨でした。

苦しみを通して神の子イエスは父のみ旨を成し遂げられました。そこから分ることがあります。それは、「社会で成功するという望みが達成されないとしても人生は大丈夫」。「自分の願いが叶えられなくても、人は神に望まれ救われる存在です」。「自分の願望と思い通りに成ることが神様のみ旨ではなく、こちらの望みや理解と違うこともある。人の考える幸せを超えたものだから心配しないでください」。「自分の願いが叶わないことや、自分の思い通りに行かないことがあっても、人間の尊厳に揺るぎはない、神の前に勝者も敗者もない」ということをわたしたちに教えてください。

わたしも弱いので、願いが叶うことが福音の成就だと思ってしまうこともあります。願いが叶わない人もまた人間として尊い存在であるということをお教えさせていただきます。平和を望んでいても戦争や災害の中で死んでしまうこともまた神のみ旨と思う人もいらっしゃるようですが、それは神のみ旨ではありません。

人を超える巨大な力の前に無力を感じたり、人間が作り出した酷い状態があったとしても、悪が勝ち誇ったように見えることがあったとしても、神の救いというのは必ずやってくる。それをイエスご自身が苦しみ、殺され、復活されることによって証をしてくださいました。

救い主イエスは「こんな苦しいことは、わたし一人で充分ですから、他の人たちには味わわせたくない」と思われていた。そしてイエスの受難を通して確かに救いはやって来た。しかし、人は生きる中で、人が作り出した罪や思いがけない災難によってイエス様と同じような苦しい体験をすることがあります。イエスはご自身の体験を通して、今もわたしたちと共にいて、重たい十字架を今も共に担ってくださいます。そして「あなたは大丈夫。あなたは神様から呪われてるのではなく、あなた自身は人間として素晴らしい存在です。人間が作り出したものによって苦しみを受けることがあったとしても、いじめられることがあったとしても、あなたの存在は素晴らしいものです」といつも励ましてくださいます。

自分の願いが叶ったことを喜んでいたり、人の願望が成就したことを羨望のまなざしで眺めているだけなら、神のみ旨がわかりにくくなることもあります。イエスの生き方に目を転ずることによって、大切なことに気付くことができますように。